

衆生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2015 年 5 月 1 日 発行
(通巻 465 号)

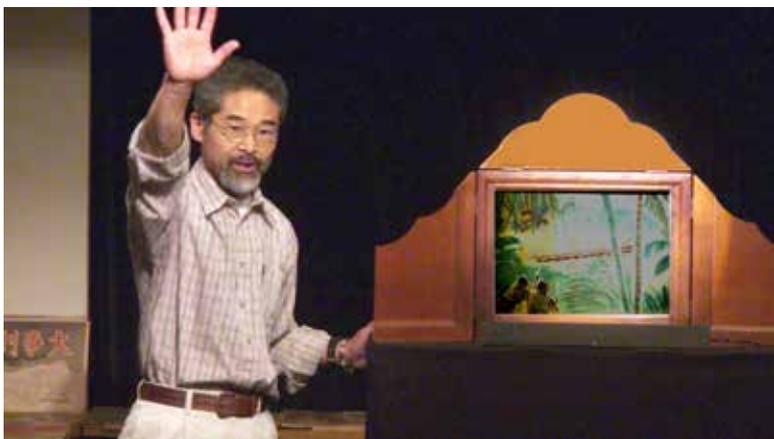
現代座レポート No. 62

- ・昭和のコドモ・試演会 (1)
- ・昭和のコドモが伝えたいこと 木村快 (2)
- ・『武蔵野の歌が聞こえる』 (3)
- ・総会報告 1 (4)
- ・総会報告 2 (5)
- ・NPO 現代座を支える人々第 19 回 環 笑子さん (6)
- ・ブラジルから・活動日誌 (7)
- ・お知らせ (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX 042-381-6987



紙芝居『ブキテマ高地』を上演する黒澤義之



会場・3F小ホール



『いなむらの火』を上演する川上伸一氏

昭和のコドモ・試演会 戦時中の紙芝居と歌

4月26日(日)、現代座3F小ホールで戦時中の紙芝居と歌、そして木村快の話の試演会が行われました。戦中に実際に使われていた紙芝居は、児童文学者の川崎大治先生が寄贈してくださった貴重な物です。戦後70年なのだから、これを生かして何かやろうというだけでなく、木村快の戦時中の体験や、

紙芝居と歌の背景を語るといふ試演会を3階の小ホールでやることになりました。現代座会員の相模原市の川上伸一さんが、紙芝居をやっていて、川崎先生のご紹介として先生の紙芝居「いなむらの火」を上演してくれました。戦時中の紙芝居はシンガポールの戦いを描いた「ブキテマ高地」を黒澤義之が熱演しました。歌はその戦闘の中で兵士が創った「戦友の遺骨を抱いて」や、夫を戦場に送った妻の想いを歌った「明日はお立ちか」を木村快の解説で聞きました。

木村快は作家演出家ですから、舞台に立つたことはありません。そこで緊張しないように、客席には小さなテーブルを置いてコーヒーを飲みながら聞いてもらいました。この試演会では時間が足りなくて、木村快の話は予定の半分も出来ませんでした。参加者からは「是非続けてやってほしい」という声が寄せられ、それに励まされて、今年2ヶ月に1度、3F小ホールで公演することにしました。題名は「昭和のコドモが伝えたいこと」。79歳の木村快が語ります。第1回は6月20・21日。戦時中の紙芝居は矢川千尋による「奮へ日本少国民」です。これは昭和16年に大政翼賛会が日本少国民文化協会を創立した記念に少国民はいかにあるべきかを語った紙芝居です。

昭和のコドモが伝えたいこと

木村 快

◆忘れられた世代

ぼくは昭和のコドモである。生まれたときからカチカチ言葉で「コドモ」と表記された世代であり、昭和17年から昭和20年の敗戦までは「少国民」として育てられた国民学校世代だ。こんなことを言っても、戦後育ちの人には何が何だか分からないかもしれない。ぼくらは戦争によって育てられ、日本人からは忘れられた世代なのだ。

その上、ぼくは植民地時代の朝鮮生まれで、海外では最大の海軍基地であった鎮海という街で育った。父は昭和19年に召集され、母子6人を置いて硫黄島で玉砕した。敗戦後は命からがら日本に追い返された。忘れられた世代の中でもさらに少数派の体験を持ったコドモだ。内地で育ったコドモとは感覚が違うためか、日本に引き揚げてからはいつも変人扱いされ、いじめられた。

「昭和のコドモ」シリーズで
使う予定の、戦時中の紙芝居。



・昭和16年、「もうコドモではない。立派に国を背負う少国民だ。少国民奮起せよ！」
タイトルの横書きは昭和16年までは右から。



・大東亜戦争の開始、シンガポール攻略戦でイギリス軍と死闘を重ねたブキテマ高地。



・戦場に徴用される民間人を軍属と言う。これは大工さんの話。「残されたコドモのために保険をかけよう」。保険会社の紙芝居。



・昭和18年、ニューギニア戦線で潰滅した部隊の兵士は、洞窟の壁に自分の爪で遺書を。



・「もうコドモではない、少国民奮起せよ!」、どこかで聞いた言葉だ。少国民はどこまで大切な記憶を伝えられるか。

◆大東亜戦争

戦後70年もたてば、これで戦争の記憶は消えると思ったが、突然、「集団的自衛権」だの沖縄の辺野古基地だのと騒がしくなってきた。そしてやたらと「先の大戦で…」という言葉が踊る。天皇がペリリュー島を慰霊された際も「先の大戦」だった。日本では昭和20年以前のこととは学校で教えないから、「先の戦争」とは何だったのかはまったく分からなくなっている。

昭和16年12月に対米英戦争が始まったとき、東條内閣は「現在継続中の支那事変を含め、大東亜戦争とする」と閣議決定し、天皇の裁可を仰いだ。つまり、昭和12年から始まった日中戦争がさらに対米英戦争に拡大され、大東亜戦争となったわけだ。ぼくらはそう教えられた。

だが、戦後はGHQの指令で一転して「太平洋戦争」になった。アメリカ側からすれば太平洋が戦場だったからだ。しかし、講和条約締結後、独立国家になっても日本のマスコミは「太平洋戦争」を使い、中国との戦争から始まったイメージは消えて行かなかった。政治家は「先の大戦」という言い方で

戦争の実態を曖昧にしようと努力している。アジア諸国が不信任を持つのは当然のような気がする。

「歴史を捨てた国に未来はないぞ!」と一喝したいところだが、これは案外ぼくら国民の側の問題かも知れない。ぼくらは江戸時代代ながら、なんでもおおとマスコミに頼りきりだ。そのマスコミも国境なき記者団の世界報道自由ランキングによると、最近の日本は世界63位、先進国では最低だ。

ぼくも人生の終末にさしかかり、「人の責任を追及する前に、お前は何をして来たんだ」と言われそうだから、せめてコドモの目で見えた戦争のことも伝えてみようかと思う。お上に頼るより、顔の見える関係で共に振り返り、一緒に考えるしかない。

◆共に生きる民主主義を

戦後、ぼくは広島市の祖父のもとに引き取られ、成人するまで広島市内で働いた。ぼくの本籍地は原爆病院のそば、爆心地から2km以内である。中学を出ると土建屋の職人たちの中で育った。職人たちはみな広島5師団の復員兵で、休憩時や棟上げ式の飲

み会では、戦争の手柄話で盛り上がるのが常だった。

18歳からは平和公園の造成の仕事をするようになった。平和の公園を作るために、朝鮮人の慰霊碑が撤去されるのを見た。原爆死者20万人の内少なくとも2万人は朝鮮人だと言われている。朝鮮育ちの昭和のコドモにとっては何ともつらい光景だった。毎年テレビが原爆の日の式典を放映するが、朝鮮人の死者のことには決して触れない。日本人は国籍を問わず人を吊り心を失ってしまったのだ。これからは自分の目で確かめながら生きて行くしかないと思った。

いつたいこの国の民主主義とは何だと思ふ事がある。できることなら他者の声を聞き、少数者の声を聞いて、多くの民と共に生きる民主主義であって欲しい。

参加費：2000円

(コーヒー・クッキー付き)

◆第1回 6月20日(土) 21日(日) 14:00～16:00 戦時中の紙芝居「奮へ日本少国民」

◆第2回 8月1日(土) 2日(日) 14:00～16:00 戦時中の紙芝居「爪文字」

『武蔵野の歌が聞こえる』 秋に再演します

◆合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」は昨年9月に満席の9回の公演を終わることができました。4年間の準備期間を経てこれを創り上げた「平右衛門プロジェクト」は、その後も話し合いを続け、これで終わるのでなく更に前へ進もうと確認しました。そして、ホームページを充実させるとともに、芝居の再演に向けての準備を進めてきました。

◆今年の公演は9月4日(金)から7日(月)まで、現代座ホールで行うことを決めました。

◆公演に先立って、もつと多くの方に川崎平右衛門を知ってもらうために、5月15日にシンポジウムを開くことにしました。「川崎平右衛門とその時代」という題で、元府中第7小学校校長で平右衛門の研究者の野田政和先生に講演をしていただきます。講演後には芝居で平右衛門役を演じた黒澤義之と市民出演者の塚田善久さんも加わってのトークセッションです。

◆昨年の公演後、市民の自主学習グループ「クリスタル」の会長さんから、「芝居を見てとても良かったので、DVDを見てみんなで勉強したい」という申し入れがありました。DVDはありますが、ナマでこそ伝わるのが芝居ですから、ただDVDだけ見ても駄目だろうと、いっしょに考えて、説明入りの短縮版DVDを作成しました。そして当日はプロジェクトの織壁さんと現代座の木下も参加して、お話しもしました。皆さんから「分かりますかった」と言っていたので、皆さんから「分かってホットしました」。

◆また、「公演を見てはじめて平右衛門のことを知った。この人のことはもつと多くの人に知らせていかなくてはいけない」と「むさしの歩こう会」の役員の皆さんが訪ねてきてくださいました。武蔵野台の各地で平右衛門の事績を訪ねるウォーキングを企画したり、地域に働きかけてイベントをやっていること、色々考えていらっしやるようです。

◆ただ公演を見て終わるのではなく、こんな風に広がっていくのも、地元の話なればこそです。改めて地域の話や芝居にすることは大事だなと話し合っています。

◆今年の公演でも、また新しい人との出会いが楽しみです。

武蔵野御救氏神 川崎大明神

渡辺紀彦著『代官川崎平右衛門の事績』によると、平右衛門は小金井の関前陣屋と鶴ヶ島三角原陣屋の間を馬で通ったとある。鶴ヶ島市に残る三角原陣屋跡を訪ねてみた。行程ほぼ30km。

かつて八王子の千人同心が日光勤番のために通ったと言われる千人同心街道(現在の406号線)を北へ向かうと、鶴ヶ島中学の向かい側に鶴ヶ島市史跡「北武蔵野陣屋跡」が保存されている。陣屋跡の広場の中に小さな祠がある。

扉を開くと「武蔵野御救氏神(おすくいうじがみ)川崎大明神」とある。平右衛門没後25年忌に建立されている。

隣接する坂戸市の神明神社境内には没後86年の嘉永6年に建立された「川崎大明神」の石碑も残っていた。いずれのケースも、何世代も後の人々によって建立されており、代々語り継がれてきたことがわかる。

疱瘡神社のこと

享保17年、押立村平右衛門、中野村源助、柏木村弥兵衛ら名主の連名で、幕府に疱瘡(ほうそう)予防のため、象洞(そうぼら)の販売を願いだした古文書がある。疱瘡とは天然痘のこと、当時は予防法のない恐ろしい病気だった。象洞とは象の糞から製薬した予防薬で、將軍吉宗がタイから輸入した象の糞を使ったものだ。当時白牛糞からの製薬も試みられており、時代的制約の中で幕府も予防法を模索中であった。これを象のクソで金儲けをした平右衛門は利殖の達人だと言う人もいる。わたしはそうは思わない。平右衛門は名主であり、象洞で得た金は府中大國魂神社の随神門建設に寄進している。小金井には疱瘡神社のお宮がある。幕末に牛痘法による予防接種が可能になるまで、疱瘡が流行すると人々はひたすら神に祈るしかなかったのだ。



・石祠が劣化しないよう、切妻づくりの木祠で守られている。

平右衛門を訪ねて 木村 快



・小金井市本町の稲穂神社境内にある疱瘡神社。元は別の場所にあったが、明治年間に移設されたとのこと。

◆『武蔵野の歌が聞こえる』舞台写真、上演の動画はシニアSOHO小金井のホームページで視聴できます。

シニアSOHO小金井「平右衛門プロジェクト」ホームページ <http://heimon.org/siryu1.html>

NPO現代座 第14回総会報告

2015年3月28日(土) 午後6時から現代座で「NPO現代座第14回定期総会」が開かれました。正会員17名中12名の出席でした。

今回は3年ぶりに、青森県の弘前市で子育てしながらホームページを担当している卜部美佳子も参加出来ました。まずはみんなの近況報告。それぞれが生活している場所での活動の話で盛り上がり、から総会に入りました。

財政状況の報告

左の表は東京都に提出した「活動計算書」です。項目を簡単に説明します。

まず、2014年度は約5万円の黒字になりました。けれど前年度までの累積赤字がありますから、まだ25万円程度の赤字が残っています。

【I-1 経常収益】

収入では、まず会員の皆様の会費と寄付で支えていただきました。この約200万円が現代座の基本的な活動が成り立っています。遠隔地の皆さまにどのようなお返しができるかを考えなければ

なりません。

本当にありがとうございます。

【I-4-①地域劇場づくり支援事業】

これは現代座会館を地域の方や創造活動をやる方に活用してもらおう事業です。

◎ 定例活用

毎週行われたのは、1、小金井熟年会の勉強会、2、障がい児の放課後預かり事業「バンビノ」、3、早稲田ラジオスクールの通信制大学生支援講座と「教育文庫」、4、今年度からは「東志野香のヨガ教室」も始まりました。5、現代座のある緑町第二町会の「緑町ふれあいサロン」も毎月盛会です。町会の役員会や総会にも使っていたいただいています。

◎ 地下ホールと3F小ホール

10団体の公演や発表会と14団体の稽古等が行われました。地元の演劇サークル「夢さしの」や「サボテン・アミーゴ」、大道芸の「ながめくらしつ」は毎年公演しています。今年度は現代座の出演者やスタッフが所属する「ボンボン組」や「りんどうの会」公演が3Fで行われ、そこで出会った演奏家が定期的に使用してくださり、新しい繋がりが生まれています。

【I-4-②制作上演事業】

◎合唱構成劇『武蔵野の歌が聞こえる』
市民プロジェクトで4年間準備してき

た川崎平右衛門の物語を合唱構成劇にして9月11〜15日、9ステージの公演を行いました。毎回満席で755人の方に観ていただき、たくさんの方のアンケートや励ましをいただきました。

◎ 『約束の水』

2月に新しいメンバーで制作した「約束の水」を12月5日〜8日に再演しました。4ステージの公演で187人の方に観ていただきました。

【I-4-③セミナー事業】

◎『遠い空の下の故郷』ハンセン病療養所に生きて』

品川区の戒法寺の法要と長野県佐久教会の講演会で上演しました。松本真理子さんのアコーディオン演奏による木下美智子の一人語りです。

◎『SPレコード雑談会』はほぼ毎月行い、戦争を考えるため、戦前の満州にかかわる歌を中心に聞き、話し合いました。

【I-4-④国際協力事業】

これらの活動は収益にはなりません。記載項目に指定されています。

ブラジル「ありあんさ通信」を5月と2月に発行しました。木村快著『共生の大地アリアンサ』はブラジルでポルトガル語版が出版されました。

日本力行会でブラジル人留学生を対象

に「アリアンサ移住地の成り立ち」の講座を3回行いました。

【II-1-2 消耗品(修繕)費】

◎現代座会館の椅子の新調と修繕
地下ホールへの階段をリフォームし、客席の椅子を新しくしました。

2012年4月の強風ではげ落ちた会館東側壁面をリフォームしました。

【II-2-1 人件費】

◎事務所スタッフ

現在は会館管理の常任者がいないため、5月から近所の子育て中のお母さん、柳澤友季子さんと前田なつみさんが事務所スタッフとして平日、掃除や資料のスクリーンなどの作業を手伝ってくださっています。



顔の見える小さな総会です。

2014年度 活動計算書

2014年3月1日から 2015年2月28日まで

特定非営利活動法人 NPO現代座

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		1,754,000
2 受取寄付金		297,600
3 受取助成金等		
公共団体補助金	0	
民間助成金	0	0
4 事業収益		
①地域劇場づくり支援事業収益	3,546,450	
②制作上演事業収益	2,830,000	
③セミナー事業収益	298,000	
④国際協力事業収益	0	
⑤まちづくり事業収益	3,000	
⑥子ども健全育成事業収益	0	
⑦会報発行事業収益	0	6,677,450
5 その他収益		
受取利息	112	
雑収益	104,156	104,268
経常収益 計		8,833,318
II 経常費用		
1、事業費		
(1) 人件費		
給料手当	293,800	
(2) その他経費		
制作・準備費	92,077	
創造・上演費	1,473,680	
交通・通信費	526,119	
資料・印刷費	6,254	
消耗品費	1,733,497	
会報・HP経費	886,610	
その他経費 計	4,718,237	
事業費 計		5,012,037
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	333,900	
(2) その他経費		
通信運搬費	123,464	
消耗品費	199,475	
OA経費	630,103	
雑費	162,179	
光熱水道費	1,047,984	
租税公課	70,000	
家賃	1,200,000	
その他経費 計	3,433,205	
管理費 計		3,767,105
経常費用 計		8,779,142
当期正味財産増減額		54,176
前期繰越正味財産額		-306,187
次期繰越正味財産額		-252,011

当期において、その他事業は実施していません。

NPO 現代座を支える人々

第十九回

環笑子さん

記 武本英之

環笑子さん
(たまき えみこ)

「手伝ってほしい
と思ったとき、気軽
に声をかけられる人
がいます」と現代座
の仕事の切り盛りす
る木下美智子さん。

その貴重なお一人が環笑子さんである。現代座に関わる人々は役者さんもそうだが専門は一人もいない。劇団がNPO法人になってからは特にそう。子育て、バイト、趣味と、何かしら制約を抱える。そんな中、日常の仕事を気安く頼める人は、お願いする側からすると神様のような方に違いない。

「環さんも忙しい方だと承知しています。彼女が醸し出すムードが頼みやすいんですね。お願いできる？いいわよ、といった感じで」と木下さん。その乗りで芝居の受付から会報の封筒詰めまで、何でもお引き受けくださっている。筆者も環さんと同じく、現代座がある5丁目に住むが、なかなかそうは……（言い訳めいてきました）。

環さんが現代座に関わるきっかけは十年ほど前、朗読や人形劇の講座に参加してから。その頃、「牙のない狼」というミュージカル講座にいっしょに参加した小学一年生だった娘の幸乃（ゆきの）ちゃんはもう中学三年になる。その幸乃ちゃんが小学五年生

の時、通っていた小金井第三小学校で、昨年小金井市で話題となった現代座の芝居「武蔵野の歌が聞こえる」（木村快作）の主人公・川崎平右衛門の朗読劇が上演された。この話を持ち込んだのが環さんである。

子どもへのアプローチから広がる

最初、環さんが参加するPTA自主ボランティア「三小おはなしかいカラフル」が、ハンセン病患者さんの道のりを描いた語り「遠い空の下の故郷」（木村快作）か、小金井と関わりの深い「小金井小次郎」（同）を上演したいと考えたが、両作品は小学生には難しいだろう、ということと、最終的に木村快さんが「川崎平右衛門なら地元の話」と、その頃勉強会を行っていた川崎平右衛門プロジェクトの協力で3カ月ほどかけて小学生でも分かりやすい朗読劇として書き下ろした。これが評判を取り、昨年の「武蔵野の歌」につながった次第。

「小金井市の小学校では三、四年生の社会科の副教材で川崎平右衛門を取り上げているんです」と環さん。「朗読の最後のセリフ、『力ある者は力を出せ、知恵のある者は知恵を出せ、優しさを持つ者は人に優しくしてやれ』、が今でも心に残っています。子ども達にもつたわったと思います」という。この朗読劇が「武蔵野の歌が聞こえる」への踏み台になったことは確か。「朗読劇では、協同」という言葉も、ロッジ・デール先駆者組合の話もまだ出てきません。「武蔵野の歌が聞こえる」で「協同」の仕組みという落

とし所を見出され、すぐいいお芝居になったと思います」と鋭いご批評の環さんである。それもそのはず、環さんは朗読劇を契機に、毎月一回開かれる平右衛門プロジェクトに紅一点参加し勉強されている（写真真ん中が環さんです）。

現代座はもつと講座を広げてほしい

大学、高校、中学といずれも進学間近の三年生のお子さん（上二人は男子）がいる環さんは大忙しだが、実は音大出のアーティストなのだ。専門の楽器はトランペット！故郷の茨城の鼓笛隊で小学四年の時、この楽器に出会って中学、高校、大学と吹いてきた。二十歳の頃はキューバのリズムに乗せたサルサバンドの一員。お年寄り向けのお芝居にも出演していたことも。現代座と巡り合ったのは必然の成り行きかもしれないですね。「今、東志野香さんのヨガ教室に参加しています。最近、現代座は講座が少ないのでは？私は講座に参加してから現代座に始めましたから」と環さん。是非ともサルサの講座を開設していただきたい。（了）



※このシリーズを担当している筆者の武本英之さんは専門紙「東京交通新聞」の編集局長。NPO現代座正会員でもあります。

ブラジルから

◆ブラジルからのお客様

4月6日、ブラジルの「ユバ農場」から「ユバ・バレエ団」の主宰者、小原明子さんが来日され、現代座を訪ねてくださいました。

小原さんは1961年、弓場勇の招聘で彫刻家のご主人小原久雄さんと共にユバ農場に移住され、土から離れぬバレエ団「バレエ・ド・ユバ」を創設され、2008年にはブラジル連邦政府文化功労賞を受賞しています。

今回は娘さんのアヤさんといっしょに来日され、「昔、大学教授だった父から小金井の桜はぜひ見ておきなさい」と言われていたとのことで、木村と木下が小金井公園にご案内しました。運良く桜は満開でした。



小金井公園で。
中央・小原アヤさん、右・小原明子さん。

◆半田画伯の『ファゼンダの人々』(1942年)を寄贈して頂きました。



ファゼンダとは農場のことです。半田知雄さん(1906〜1996年)は1932年(昭和7)にブラジル日系社会の美術団体聖美会を創設され、多くの国際的画家を育てられた方です。移民問題の専門家としても著名な方で、木村快の取材時は亡くなられる直前で面会禁止であったにもかかわらず、「ぜひ逢いたい」と応じてくださいました。

半田さんは1930年代から弓場勇と交友があり、この絵は1942年(昭和17)にユバ農場で描かれたものだそうです。

寄贈してくださったのは長くブラジルに滞在されていた小山昭子さんです。小山さんは半田知雄の絵のコレクターとしても知られた方で、「この絵は現代座に飾った方がいいと思う」と送ってくださいました。
ありがとうございました。

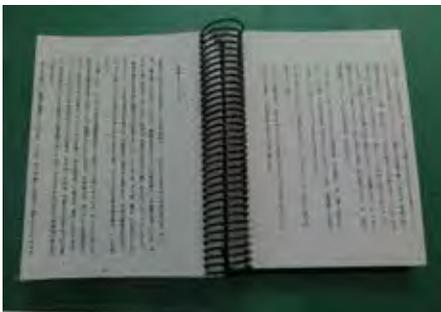
◆『アリアンサの思い出』

ブラジルのサンパウロで木村快の『共生の大地』を読まれた井口・原・道子さんから、ぜひ目を通して欲しいとアリアンサの思い出を綴った手製の書籍を送っていただきました。

道子さんは1936年(昭和11)に第二アリアンサで生まれました。日本語教育を禁止された時代に育ちながら独学で日本語を習得され、日本文化を次の世代に伝えたいと、アリアンサについての記憶を書き続けておられます。

子ども時代の思い出はどれも生き生きと当時の生活を伝えてくれます。特に第二次大戦中の過酷な移民の暮らしぶりに胸を打たれます。日本人にも知ってほしい歴史です。

写真はパソコンでプリントしたものを街の職人に頼み、コイル・リングで閉じたブラジル独特の製本です。このご苦労を含め、ぜひ関心のある方々に読んで貰いたいと思います。ありがとうございました。



現代座会館 2月〜4月 活動日誌

2月17日 愛知書房田中氏来訪、ブックレット打合せ

18日「レポート61号」発送・「平右衛門プロジェクト」

19日「緑町ふれあいサロン」

22日「SPレコード雑談会」

27日 クリスタルの会「武蔵野の歌」上映会

3月18日「平右衛門プロジェクト」会議

19日「緑町ふれあいサロン」

22日 むさしの歩こう会の皆さん来訪

28日 NPO現代座第14回定期総会

29日「SPレコード雑談会」

4月6日 ブラジルより小原明子さん来訪

16日「緑町ふれあいサロン」

17日「平右衛門プロジェクト」会議

26日 試演会「戦時中の紙芝居と歌」

【現代座ホール】

2月3〜5日 「希望舞台」稽古

2月7〜3月3日 「伊藤巴子企画」稽古

3月15・16日 「シアター青芸」稽古

3月26〜29日 「ブルーベリー・バイ・ファミリー」公演

4月20・21日 「青栗鹿」稽古

4月25日 「イ・カントリ」オペラ稽古

4月27〜29日 「劇団・影法師」稽古

4月30〜5月5日「シアター青芸」稽古

【三階小ホール】

3月15日 津田「リトル・コンサート」

3月16日 「女声合唱団」練習

4月15日 「飯村先生」歌の講座

【定期使用 一階サロン】

毎日曜日 早稲田ラジオスクール(学生支援)

毎月曜日 子どもクラブ・パンピーノ

毎水曜日 熟年パソコンサークル

隔木曜日 iPad熟年講座

毎火曜日 東志野香のヨガ教室(3F)

現代座の催し物のお知らせ

NPO現代座

TEL 042-381-5165

FAX 042-381-6987

『昭和のコドモが伝えたいこと』シリーズ

現代座に寄贈されている戦時中に使われた紙芝居と、人々に歌われた歌謡と、昭和のコドモの語りです。

昭和12年から20年まで8年も続いた大東亜戦争の時代は、旧植民地の朝鮮で育った昭和のコドモの木村快の目にはどのように映ったかを語ります。

第1回 戦時中の紙芝居『奮へ日本少国民』

上演・矢川千尋

昭和16年に国民学校令が公布され、尋常小学校は国民学校に改組されます。そして「もうコドモではない、国を守る少国民だ!」と教育内容も全面的に変更されます。音名の「ドレミファ」は禁止、「ハニホヘト」になる。

歌「勝ち抜く僕等少国民」「少国民進軍歌」
「父母の声」「森の水車」

6月20日(土)・21日(日) 14:00～16:00
参加費：2000円(コーヒー、クッキー付き)
現代座3F小ホール 各回30人の予約制です。

第2回 戦時中の紙芝居『爪文字』

上演・木の下敬志

昭和18年、ニューギニア戦線で潰滅した部隊の兵士は、洞窟の壁に自分の爪で遺書を。

徴兵制度でかり出された若者たちはどのような状況に追い込まれたのか。

歌「海鷲だより」「ダンチョネ節」「空の父空の兄」

8月1日(土)・2日(日) 14:00～16:00
参加費：2000円(コーヒー、クッキー付き)
現代座3F小ホール 各回30人の予約制です。

平右衛門プロジェクト・シンポジウム

「川崎平右衛門とその時代」

講演：野田政和氏(元府中第7小学校校長)

講演後、舞台上で平右衛門役の黒澤義之と市民出演者塚田善久も加えたトークセッションが行われます。

2015年5月15日(金) 14:00～16:00
現代座3F小ホール 参加費：500円

武蔵野を協同の大地に変えた川崎平右衛門

合唱構成劇『武蔵野の歌が聞こえる』

脚本・演出：木村快 音楽：福沢達郎

2015年9月4日(金) 14:00 19:00
5日(土) 14:00 19:00
6日(日) 14:00
7日(月) 14:00

会場 現代座ホール

参加費 大人3000円 小中高1000円

各回80人の予約制です。事前にお申し込みください。

Booklet「武蔵野の歌が聞こえる」の発行

第1部「武蔵野の歌が聞こえる」ものがたり

第2部「芝居は心の街おこし」

この芝居の内容はどのような角度でまとめられたか。宝永大地震からの復興をめざした享保の改革。そして、武蔵野新田開発は戦後の緊急開拓と重なる。農民の自立・協同を引き出したリーダー川崎平右衛門。

愛知書房から5月末か6月はじめに出版。

販売価格は1000円の予定です。

ぜひお読みください。

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円

協賛会員 10,000円(1口以上)

郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座